

商品名 オキシコドン徐放カプセル10mg「テルモ」 医薬品基本情報

薬効	8119 その他のあへんアルカロイド系麻薬	一般名	オキシコドン塩酸塩水和物徐放カプセル
英名	Oxycodone SR	剤型	徐放カプセル
薬価	233.60	規格	10mg 1カプセル
メーカー	帝國製薬	毒劇区分	(劇)(麻)

オキシコドン徐放カプセル10mg「テルモ」の効能・効果

中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛

オキシコドン徐放カプセル10mg「テルモ」の使用制限等

- 重篤な呼吸抑制、重篤な慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息発作中、慢性肺疾患に続発する心不全、痙攣状態、ストリキニーネ中毒、てんかん重積症、破傷風、麻痺性イレウス、急性アルコール中毒、類薬で過敏症の既往歴、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、出血性大腸炎、重篤な細菌性下痢、ナルメフェン塩酸塩水和物投与中、ナルメフェン塩酸塩水和物投与中止後1週間以内
- 細菌性下痢
- オピオイド鎮痛薬を使用していない
- 心機能障害、低血圧、呼吸機能障害、脳器質的障害、ショック状態、代謝性アシドーシス、甲状腺機能低下症、粘液水腫、アジソン病、副腎皮質機能低下症、薬物依存又はその既往、アルコール依存又はその既往、アルコールによる精神障害、薬物による精神障害、尿道狭窄、前立腺肥大による排尿障害、尿路手術術後、器質的幽門狭窄、最近消化管手術を行った、痙攣の既往、膵炎、胆石症、胆嚢障害、重篤な炎症性腸疾患、腎機能障害、肝機能障害

記載場所	使用上の注意
------	--------

注意レベル	禁止
-------	----

記載場所	使用上の注意
------	--------

注意レベル	原則禁止
-------	------

記載場所	用法・用量
------	-------

注意レベル	注意
-------	----

記載場所	使用上の注意
------	--------

注意レベル	注意
-------	----

オキシコドン徐放カプセル10mg「テルモ」の副作用等

- 退薬症候

記載場所	用法・用量
------	-------

頻度	頻度不明
----	------

2. ショック、アナフィラキシー、顔面蒼白、血圧低下、呼吸困難、頻脈、全身発赤、血管浮腫、蕁麻疹、薬物依存、あくび、くしゃみ、流涙、発汗、悪心、嘔吐、下痢、腹痛、散瞳、頭痛、不眠、不安、譫妄、痙攣、振戦、全身筋肉痛、全身関節痛、呼吸促迫、動悸、退薬症候、息切れ、呼吸緩慢、不規則呼吸、呼吸異常、呼吸抑制、錯乱、無気肺、気管支痙攣、喉頭浮腫、麻痺性イレウス、中毒性巨大結腸	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
3. 著しいAST上昇、著しいALT上昇、著しいALP上昇、肝機能障害	記載場所	重大な副作用
	頻度	5%未満
4. 便秘、嘔気	記載場所	その他の副作用
	頻度	頻度不明
5. 過敏症、発疹、蕁麻疹、不整脈、血圧変動、低血圧、起立性低血圧、失神、眠気、眩暈、発汗、幻覚、しびれ、筋れん縮、頭痛、頭重感、焦燥、不安、異夢、悪夢、視調節障害、不眠、抑うつ、感情不安定、興奮、縮瞳、神経過敏、感覚異常、痙攣、振戦、筋緊張亢進、健忘、多幸感、思考異常、構語障害、痛覚過敏、痛みが増悪、アロディニア、下痢、食欲不振、胃不快感、口渇、腹痛、鼓腸、おくび、味覚異常、嚥下障害、オッジ筋機能不全、そう痒感、発熱、脱力感、倦怠感、胸部圧迫感、血管拡張、顔面潮紅、熱感、排尿障害、尿閉、脱水、呼吸困難、悪寒、頭蓋内圧亢進、無月経、性欲減退、勃起障害、浮腫、皮膚乾燥	記載場所	その他の副作用
	頻度	頻度不明
6. 傾眠、意識障害、嘔吐	記載場所	その他の副作用
	頻度	5%未満
7. 脊髄刺激効果、薬物依存、便秘、嘔気、嘔吐、強い眠気、呼吸抑制、頭蓋内圧上昇、昏睡、巨大結腸症、催奇形作用、退薬症候、多動、神経過敏、不眠、振戦、意識不明、痙攣、錯乱、血圧低下、重篤な脱力感、重篤な眩暈、嗜眠、心拍数減少、不安、縮瞳、皮膚冷感	記載場所	使用上の注意
	頻度	頻度不明

オキシコドン徐放カプセル10mg「テルモ」の相互作用

1. 薬剤名等：ナルメフェン塩酸塩水和物投与中止後1週間以内			
発現事象	-	投与条件	-
理由・原因	-	指示	禁止
2. 薬剤名等：ナルメフェン塩酸塩水和物			
発現事象	本剤の鎮痛作用を減弱、退薬症候	投与条件	-
理由・原因	μオピオイド受容体拮抗作用により、本剤の作用が競合的に阻害	指示	禁止
3. 薬剤名等：中枢神経抑制剤			
発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用を増強	指示	慎重投与
4. 薬剤名等：吸入麻酔剤			

発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用を増強	指示	慎重投与

5. 薬剤名等：MAO阻害剤

発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用を増強	指示	慎重投与

6. 薬剤名等：三環系抗うつ剤

発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用を増強	指示	慎重投与

7. 薬剤名等： β 遮断剤

発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用を増強	指示	慎重投与

8. 薬剤名等：アルコール

発現事象	呼吸抑制、昏睡、低血圧、顕著な鎮静	投与条件	-
理由・原因	相加的に中枢神経抑制作用を増強	指示	慎重投与

9. 薬剤名等：クマリン系抗凝血剤

発現事象	作用が増強	投与条件	-
理由・原因	-	指示	慎重投与

10. 薬剤名等：CYP3A4阻害作用を有する薬剤

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し副作用が発現	投与条件	-
理由・原因	CYP3A4を介する本剤の代謝が阻害	指示	慎重投与

11. 薬剤名等：CYP3A4誘導作用を有する薬剤

発現事象	本剤の血中濃度が低下し作用が減弱、これらの薬剤の中止後に本剤の血中濃度が上昇し副作用が発現	投与条件	-
理由・原因	CYP3A4を介する本剤の代謝が促進	指示	慎重投与

12. 薬剤名等：抗コリン作用を有する薬剤

発現事象	尿貯留、麻痺性イレウスに至る重篤な便秘	投与条件	-
理由・原因	相加的に抗コリン作用を増強	指示	注意

13. 薬剤名等：ブプレノルフィン

発現事象	本剤の鎮痛作用を減弱、退薬症候	投与条件	-
理由・原因	ブプレノルフィン、ペンタゾシン等は本剤の作用する μ 受容体の部分アゴニスト	指示	注意

14. 薬剤名等：ペンタゾシン等

発現事象	本剤の鎮痛作用を減弱、退薬症候	投与条件	-
理由・原因	ブプレノルフィン、ペンタゾシン等は本剤の作用する μ 受容体の部分アゴニスト	指示	注意



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『DIR』